

## 森は水の源(みなもと) 水は命(いのち)の源 川は命のつながり

上流は下流を思い、下流は上流に感謝する木曽川・飛騨川・愛知用水の交流・連携を

木曽青峰高校インテリア科3年生4人、木製玩具を名古屋市科学館に贈呈

### 今回の作品、キーワードは「バランス」

2024年2月14日午前11時半から名古屋市科学館理工館2階のウディプレイランドで、長野県木曽青峰高校インテリア科3年生4人が制作した木製玩具4作品の贈呈式を行いました。この式に、4人の女子高校生と山下先生、木曽広域連合地域振興課から古川課長、竹原氏、みんな・みんなの会からは、近藤事務局長、斎藤まこと顧問と私が参加しました。

贈呈式では、名古屋市科学館の大路館長から「森林を守っていくことの大切さは、毎年山登りを行っているので分かっています。その間伐材の木々を活用して今回も凄く魅力的な作品を作ってくださいました」とお礼の言葉とともに、感謝状が木曽青峰高校とみんな・みんなの会に贈られました。

地域振興課長・古川氏からは、毎年夏に科学館で行っているヒノキ材を使って「アロマオイル」を抽出する下流域の親子づれによるイベントの紹介と上流の高校生が作った木製玩具を受け入れている科学館へのお礼の言葉が述べられました。

4人の高校生は作品で「曲線のところ」「重さや形でのバランス」などと苦労した点や遊び方などが話されました。作品名は「イルカバランス」「宇宙ドームバランス」「ふらふらバランス」「ブナのバランスパズル」で、いずれもブナ材で作られています=写真。

作品づくりを支え、協力してきた山下先生からは「今回の生徒は4人ともデザインコースなので木工機

械に慣れておらず、苦労したけれど、がんばって作りました」と言われました。

科学館学芸員の山田氏は「今回の作品は、どれも子



どもにとって“ヒット”作品です。どんな遊び方をするのか楽しみです」と話されました。

私たちは「木曽川流域水源の里基金」の運用として、木曽青峰高校インテリア科に2013年から木製玩具づくりを依頼しています。2024年度もインテリア科3年生に、木製玩具づくりをお願いしていきます。

皆さん、2024年度もこの取り組みにご支援・ご協力をお願いします。(事務局 かわさき)

## 大豆作りから新たなつながりへ

～楽作隊へのご支援・ご協力に、感謝申し上げます。ありがとうございました～

みんな・みんなの会の活動として上流への行きつけの場所を作りたい、具体的に顔の見える関係・つながりをつくりたいとの思いから木曽川源流の里・木祖村での大豆づくりの模索を2010年以降に始めました。

大豆と決めたのは私たちの食生活において、極めて重要な食材であるにもかかわらず自給率はわずか6%、味噌、

醤油、豆腐、納豆などの加工食品に限っても20%ほどと、憂慮すべき状況があったからです。

木祖村の笹川さんが私たちを受け入れてくださり、その畑をお借りして2011年5月から大豆作りが始まり、毎年畑の準備から様々な道具の段取りまでお世話になりながら13年続けてくることができました。

大豆作りの作業は年8回ほど、5月から11月の土、日曜日に笹川さんの「高原荘」に宿泊し、畑の作業を行ってきました。豊作の時もありましたが異常気象により収穫が大きく減ったり、獣害による被害なども経験しました。

2018年は11月の大豆の殻たたきが雨続きで行えず、笹川さんや木祖村の方に作業をしていただいたこともありました。

出来た大豆は木曽町の小池靴店にて味噌「みなもと」を仕込んでいただき、下流域の木祖村アンテナショップや「ソーネおおぞね」、木祖村の「道の駅」でも取り扱っていただいています。木曽川上下流交流・連携の活動を発信するアイテムとして今日も店舗に並んでいます。

残念ながら、ここ数年作業に参加できるスタッフの高齢化と健康上の問題と、新しいスタッフの参加が難しい状況もあり、これ以上の継続は困難との思いに至りました。今後、可能であれば小池靴店の味噌の天地返しへの関わり、笹川さんの田の稲刈りの参加、「高原荘」泊まり込みイベントなど、どのようにつながり続けていけるか考えていきたいと思えます。

私たちが継続できたのは、ひとえに笹川さんのお陰です。また、収穫できた大豆を味噌に加工し「木曽川上下流交流の象徴的な商品」として味噌「みなもと」への加工を小池靴店の方々が快く引き受けてくださいました。心から感謝いたします。

また、上松町にて機械選別していただきました。無農薬ゆえにかなり選別の作業も大変だったのではと心配しております。この場で改めて感謝したいと思います。

木祖村の畑では化学合成農薬を使用せず草ぼうぼうになって、草取りが行き届かなくても周囲の方々の温かい対応に感謝申し上げます。また、この間草取りの駆けつけてくださった木祖村地域おこし協力隊の方にも感謝。これからもつながりを大切にしていきたいと思えます。

今日まで、私たち楽作隊に物心両面でご支援・ご協力していただいた皆様に厚くお礼申し上げます。皆様、ありがとうございました。

2024年3月10日

みん・みんの会 楽作隊 近藤 進、篠崎 学



## 木曽にある宝物のひとつ、崖家づくり

～素晴らしい木曽の風景、自然含めてどう向き合っていけば良いのかを考える～

皆様は「崖家づくり」という家並みをご存じですか？

木曽は山々に囲まれて、町の中央に木曽川が流れています。下流では雄大な木曽川ですが、当地木曽・上流では谷深い溪流です。そんな谷深い傾斜地に身を迫り出すように立ち並ぶ民家群、それが「崖家づくり」です。当店の社長（上村三枝子）は崖家づくりの家で生まれ育った人間です。

子どもの時は下屋（したや：1階より下の階）からすぐに川へ出て遊んだそうです。毎日、目の下には木曽川が流れていて、目の前を鳥が飛び、山をみれば新緑や紅葉を楽しませてくれます。この住み慣れた家や風景がずーっと続けば良いのですが、昨今は住民の高齢化や、空き家なども増えて来ているのが現状です。



そんな中、1人の若者がこの「崖家づくり」=写真左=にスポットを当てて、大学院での修士論文で取り上げてくれました。中谷（なかや）祐樹さんです。長野県岡谷市出身で滋賀県立大学環境科学部の大学院修士2年生です。大学の研究発表では優秀賞を受賞し3月に東京で行われた全国修士論文展に推薦され、ファイナリストに選ばれ、見事に審査員賞を受賞されました。

他に類のない木曾の崖家づくりが、全国的にスポットを当てられてもっと注目されるようになればいいなと思いました。

参照：<https://tokore.site/>

せっかくの研究論文なので木曾でも発表の機会を、というこ

とになり2月21日に木曾町文化交流センターで行われました=写真右。

木曾町長の原さんを始め、建築の専門家や木曾を大好きな町民、もちろん崖家づくりに住む住民等、約40人が研究発表を聞きました。全国で見て類似する家並みはあるが、川に迫り出して作られているのは木曾だけだそうです。それらによって宙に浮かぶような迫力のある景観を生み出している事など、様々な視点からの発表がありました。しかし、問題提起もされ、現在の建築基準法では建て直しをする事が出来ない事や、維持をして行く事がとても大変な事等があげられていました。

その後、出席者で様々な意見交換をしました。当たり前の風景の素晴らしさや木曾と言えば「崖家づくり」等、とても良いディスカッションができました。会の最後には、以前、崖家づくりに住んでいた、日本文化の研究をしていたアメリカ人の方から「崖家づくりはこの町のチャームポイントだよ」とのお手紙も読み上げられました。

毎日見ていると当たり前になっている事が、外の人から見ると宝がたくさんあるんだと言う事。素晴らしい木曾の風景、自然含めて、どう向き合っていけば良いのかを考える、とても良い時間になりました。

(小池糰店 唐沢尚之)



## 十数年ぶりに島村菜津さんと再会

～2月6日、木曾町・小池糰店に来店～

2010年11月、名古屋市中区の名古屋YWCAで行われた第3回木曾川流域集会で「スローな未来～上流の農山村から学び、考える～」と題する講演者として来て頂いた、スローフードの専門家の島村菜津さん（ノンフィクション作家）=写真中央=が2024年2月6日、当店にいらして下さいました。

「木曾はやっぱり全然変わってなくて良いね」が島村さんの第一声でした。日本中の様々な町が、壊されて行く事に危惧しているそうです。その土地に似つかない建物などは、スローな生活、すなわちスローフードも壊されて行く事につながって

いくそうです。話はつきず、翌日には糰の作業もされて行きました。たくさん話をして、とても楽しい再会になりました。一緒に写っている方は、イタリア人のレジーナさんです。ナポリ大学日本語科を主席で出て、今は日本人専門の小さな旅行社をやっているそうです。小さな町で、スローライフ・スローフードがある町を紹介しているそうです。心豊かなスローライフ送りたいと改めて思われる再会でした。

(小池糰店 唐沢尚之)



# 今の異常気象は「ニューノーマル」となっており、地球温暖化対策に待ったなし！

2月12日午後3時から岐阜県可児市文化創造センターで行われた可児市議会主催で「『どうする？ 気候変動』～地域から始める緩和と適応のアクション～」をテーマにした講演会が開催されました。講師は杉山範子氏（東海学園大学教育学部教授、名古屋大学大学院環境学研究科付属持続的共発展教育センター特任教授、「世界首長誓約／日本」事務局長）です。その内容を報告します。

杉山氏は「世界気象機関（WMO）は、2023年は観測史上最も暑い年であり、23年の世界の平均気温は1.45℃上昇し、このままでは2030年には1.5℃を超えると警告している」と今日の現状を紹介しました。

また、世界は2015年のパリ協定の限界に近づいていること、エルニーニョ現象と気候変動が組み合わさって2023年後半は特に気温上昇が発生し、2024年は更に暑くなること、海水温の上昇は地球沸騰化が海水にも伝わっていることによる一といった状況をデータを示しながら話されました。今の異常気象は、「ニューノーマル」（新しい日常）となっており、地球温暖化対策に待ったなし！であり、一人ひとりができることをやっていくだけでなく、「元から変えていく」「脱炭素社会への変革」「社会システムの転換」の必要性を訴えました。

杉山氏が2018年から取り組まれている「世界首長誓約／日本」についての紹介もありました。

自治体の首長が（1）エネルギーの地産地消の推進（2）2030年の温室効果ガスの排出削減は国の削減目標以上を目指す（3）気候変動の影響への適応に取り組むの3点を誓約。「行動計画」を策定して、具体的に取り組み、2年ごとに実施状況（CO2排出量を含む）を事務局に報告する—という仕組みです。現在、世界の1万3千余、日本では47の自治体の首長が誓約しているということでした。

今回の講演会で地球温暖化・沸騰化の現実について専門家の知見をしっかりと聞き、学ぶことができました。ゼロカーボンにより、地球沸騰化を止めていくことは、市民、事業者、行政、議会、専門家の協働により、私たちがどんな未来を目指しての「まちづくり」につながっています。このような感想を持ちました。（事務局 かわさき）

木曾6町村では木曾広域連合長と同連合議会議長、各首長と議長の連名で2021年2月に「木曾広域連合気候非常事態宣言」を発し、下記の行動（要旨）を取り組むとしています。

- 資源物の有効活用、リサイクル活動を推進し資源循環社会の実現を目指します。
- 自然環境にやさしい再生可能エネルギーの普及拡大を推進し、省エネルギーへの住民意識を高めます。
- 環境に配慮した省エネルギー型施設の整備や設備の導入を促進し、自然エネルギーの有効活用に努めます。
- 木曾川上下流域の住民が一体となった森林の適切な管理、保全活動を推進し、森林の持つ水源かん養、国土保全など公益的機能の発揮により、温室効果ガスの排出抑制、災害に強い郷土の形成を目指します。

「森は水の源、水は命の源、川は命のつながり」…木曾川、水で私たちはつながっています。上流へまなざし！

（事務局 かわさき）

<お知らせ> \* 4月20日（土）午前9時から午後3時まで、木曾町内の2軒の酒蔵「七笑」「中乗さん」と「小池糶店」で「蔵開き」を開催します。お出かけください。木曾町でお会いしましょう！

\* 5月3日（金・祝）、飛騨川沿いの岐阜県七宗町で赤池弁財天まつりが行われます。行ってきます。

\* 第66回道週間行事「なごや水フェスタ」が名古屋市千種区の鍋屋上野浄水場で、6月2日（日）に開催されます。6月1日から7日までの水道週間の中の日曜日に例年開催されています。今回もみんなの会は木祖村のブースの一角に出店する予定です。普段は見る事ができない名古屋市上水道の「緩速ろ過施設」も見学できます。是非ご参加ください。お待ちしております。（みんなの会事務局）

## <2024年度もご支援・ご協力をお願いします>

2023年12月3日に、みんなの会は総会と15周年の集いを行いました。総会では①2022年度活動報告②2022年度会計報告（収支決算）③「木曾川流域水源の里基金」の報告と今後の運用④2023年度活動計画 ⑤2023年度予算などを報告・提案し、承認されました。みんなの会は2008年9月にスタートして、皆さんのお力添えをいただきながら、木曾川流域の上下流交流・連携を取り組んできました。皆さん、これからをよろしく願います。

<お願い>住所は従来と変わりません。FAX番号や電話番号（携帯番号）は下記を利用してください。

## 水源の里を守ろう 木曾川流域みんな・みんなの会

連絡先：〒464-0075 名古屋市千種区内山3-7-11

携帯電話 090-4150-6156（近藤） FAX 0574-64-4747 mail: suigennosato@gmail.com